

登録コード	MA751218	開講年度	2026			
授業科目名	病因・病態検査学特別研究（生体）				担当教員	樋口 由美子
英文授業名	Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation				副担当	
単位数	10	講義期間	通年	曜日・時限	不定期	対象専攻 / 学年
講義室			授業形態	演習	授業科目区分	選択科目
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】授業で得られる「学位授与の方針」要素					
	MS26カリ(保健学), MS25カリ(保健学), MS24カリ(保健学), MS23カリ(保健学)					
	【保健学】高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。				・課題を解決するための知識、技術、科学的根拠に基づいた問題解決能力を習得する。	
(2)授業の概要	・研究課題を解決するための基礎的な技術（細胞培養、蛋白質解析、分子生物学的解析）を教授し、実践により習得させる。 ・研究方法、研究結果に関して、指導教員との討論を行うことにより研究を進めるための基礎的能力を養う。 本研究は担当教員の医療生命科学研究における実務経験を生かし指導をおこなう。					
(3)達成目標（一般学習目標GIO）	医学、保健学に必要な基礎的知識、技術を身に付け、科学的根拠に基づいて問題を解決できるようになる。					
(4)達成目標（個別行動目標SBOS）	1. 研究実施のための情報収集が、容易にできるようになる。 2. 正確な情報に基づいて、実験計画を自ら立てられるようになる。 3. 研究遂行に必要な新しい技術を実践できるようになる。 4. 研究結果をより深く考察し、討論できるようになる。 5. 研究成果をまとめ、専門学会、情報誌にて情報発信できるようになる。					
(5)授業計画	1. 研究実施のための情報を収集する。 2. 正確な情報に基づいて、実験計画を立てる。 3. 研究計画に従って、研究を遂行する。 4. 研究結果を考察する。 5. 研究成果をまとめ、専門学会、情報誌にて情報発信する。 6. 修士論文を作成する。					
	なお、開講日時は受講学生と検討の上決定する。					
(6)授業の進め方	指導教員の個別技術指導、セミナー形式の討論を適宜実施する。					
(7)履修上の注意・事前事後学習の内容	・課題に関する原著論文を随時紹介するので、内容を理解し、記載されている実験技術を習得できるようにすること。 ・実験方法を第三者が追試できるように簡潔にまとめること。 ・日々の実験結果を考察を加えてその都度まとめ、指導教員に示せるようにしておくこと。					
(8)成績評価の方法	研究方法（40％）、実験結果に関する討論内容・実験結果レポート（40％）、研究に取り組む姿勢（20％）から評価する。					
(9)成績評価の基準	討論における説明内容の論理的妥当性などを指標として、講義内容の範囲での、最低限の解答内容であれば、「水準にある(可)」、ほぼ適切な解答であれば、「やや上にある(良)」、十分に適切な解答内容であれば「かなり上にある(優)」、該当範囲を超えて自身で能動的に学習した詳細な解答内容であれば「卓越している(秀)」と評価する。 レポートに関しては、(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している(秀)」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」。4項目までできていれば「やや上にある(良)」。3項目までできていれば「水準にある(可)」と評価する。					
(10)学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	オフィスアワー：個別の相談は、事前の連絡（e-mail;sasa0922@shinshu-u.ac.jp）によって随時対応する。					
【テキスト，教材，参考書】	課題に関する原著論文、必要技術に関する参考書を随時紹介する。					